



ほんものを たべよう

Alter Weekly Order Catalogue

2017.4月3週号

提出日	4/ 11 12 13 14
配達日	4/ 18 19 20 21
翌々週配達日	4/ 25 26 27 28

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

はちみつ HONEY

ネパールの宝、 チウリ生はちみつ

清浄な大自然の環境で採蜜された
安全なはちみつ。



米川 安寿代表(写真右)

ハニールネッサンス

文責 西川 榮郎(NPO 安全な食べ物のネットワーク オルター 代表)

たいへんおいしいはちみつ

京都にあるハニールネッサンスの米川 安寿代表は、ネパールの宝ともいうべきたいへんまるやかで、香り高く後味もおいしい、チウリ(Chiuri)の花のはちみつを、ネパールから輸入しています。

別名バター樹

チウリの樹はネパールの限られた標高の南斜面に生息しています。水はけよく、乾燥したやせた土地で育ちます。木の高さは20mにもなります。

チウリは別名バター樹とも呼ばれ、白い大きな花からはちみつが採れます。バターのようなキャラメル風味の濃厚なおいしさが特徴です。トーストやパンケーキ、シリアルなど朝食やお菓子類に向きます。オーソドックスに万能で、果実にも合うので、フルーツ料理、生姜料理にも合います。レモンを漬けてハニーレモンにしてもよく合います。

はちみつは数年経つと、味が強くなって風味が落ちる場合がありますが、チウリはちみつは年数を経るとメイプルシロップのようになり、なお一層楽しめます。

農薬などの汚染のない環境で採蜜

このはちみつの採蜜地は、農薬などに汚染されていない環境下にあり、道路などもない奥地の先住民の住む村で採蜜されています。

通常、西洋蜜蜂の飛翔距離は4kmあり、日本のようにネオニコチノイド農薬が散布された水田や果樹園が近くにあるとはちみつが農薬などに汚染されますが、この地ではその心配はありません。

森林保全メカニズム

チウリの樹は生活資源(葉っぱは編んで皿、木は燃料、種は油)であり、近年伐採が増え、減少しつつあります。ハニールネッサンスは国連により2015年から本格的に取り組まれている森林保護計画「REDD+」(森から世界を変える)の日本加盟メンバーになっています。現地ではDINESH CHEPANG(統括)と4人の管理人RESHAM CHEPANG、SHAIENDRA CHEPANG、SUMAN CHEPANG、SANICHARA PRAJAが年間4,000本のチウリの樹を植樹し、森を守っています。

2015年のネパール地震でこの地域の多くの家屋が倒れ、出費が重なっても、養蜂事業が人々にとって安心できる仕事となっています。

ヒマラヤでの環境保全是、下流13億人の水源も守ります。

非加熱の生はちみつ

採蜜されたチウリはちみつは非加熱のままビン詰めされます。はちみつは牛乳と並んで最も熱にデリケートな食べものですが、その扱いは完璧です。

日本とネパールの架け橋

米川 安寿代表はネパール生まれで、日本人(米川陽子さん)とネパール人(MOHAN MOORTI PANTさん)とのハーフです。海外暮らしを経て10才から日本に住んでいます。同志社大学大学院の博士課程に在籍し、途上国と呼ばれる国の農村で持続可能なライフスタイルを追求する人々の志の高さを論文にまとめています。

ハニールネッサンスは2011年に1人で始めました。チウリはちみつのあまりのおいしさに衝撃を受けたのがきっかけでした。世界の市場経済の荒波の中で、世界で最も辺境地といえる農村の人や暮らしを守っていくためには、このはちみつ事業しかないと思い立ちました。そのために、京都産業大学蜜蜂産業科学研究センターやはちみつ専門店でもアルバイトをし、はちみつのことを学んできました。

日本では安全な養蜂が困難

環境に大量の農薬を散布している日本では、オルターが扱う石鎚山麓の日本ミツバチのはちみつを除いて、安全なはちみつはまず入手できません。また、近年の異常気象もあって、はちみつそのものの収穫量も低迷しています。そういう意味でも採蜜地の条件・品質に優れたチウリはちみつはたいへん朗報です。

オルターへのハニールネッサンスのご紹介は京都の会員、大東 澄江さんからでした。

ハニールネッサンスの チウリ生はちみつ

●原産国	●採蜜地
ネパール	マクワンプル県 Silinge村 周辺に農薬を散布するような人為的環境はありません

●蜜蜂の種類	●採蜜の花
西洋蜜蜂	チウリの樹の花

●抗生物質

10月にフルバリネット使用あり。ただし採蜜開始前に蜜蜂の巣の残留蜜などを除去するので、残留の心配はありません。みつろうには残留します。



●製造工程
1 採蜜した蜜を遠心分離する 2 布で濾す 3 ビンに充填する

